

2011年12月28日

2011年度PBLプロジェクト

大地震災害における人的被害を減らすプロジェクト
＝すさみ町の津波対策＝

摂南大学理工学部建築学科
建築防災研究室（池内ゼミ）

すさみ町における報告会を開催！

2011年12月26日、和歌山県すさみ町において、「大地震災害における人的被害を減らすプロジェクト」の報告会開催しました。

すさみ町の津波の危険性

すさみ町は和歌山県の南端部に位置し、昭和21年の南海道地震でも大きな被害を受けました。これまでも対策は続けられてきましたが、2011年3月11日の東日本大震災を受けて、さらなる対策が喫緊の課題になっています。また、高齢化した地域でもあり、高齢者同士の避難方法を具体的に考える必要があります。

これまでのすさみ町での活動

7月上旬に現地調査を行いました。また、7月下旬に和歌山県津波避難訓練に参加し、住民の皆さんにアンケートをとりました。



すさみ町の人的被害対策を模型により提案

すさみ町周参見地区の1000分の1模型を製作し、津波避難対策を模型で示すことにしました。すさみ町は、海と切り立った山の間に住居地があり、居住区の標高は高くても5m程度です。方々の山に避難する計画ですが、避難経路の整理や避難拠点の整備が必要です。

模型製作や写真撮影には、加嶋先生と川上先生に全面的にご協力頂きました。ありがとうございました！



すさみ町での報告会を実施

すさみ町の参加者は、町役場職員と山崎区・下地一区・下地二区の区長さん3名でした。まずは、プロジェクト側3名（学生2名）で概要説明を行い、質疑応答の後、模型を使った説明を行いました。みなさん模型に興味津々で、「地区での勉強会に使いたい」との声がありました。「自分たちの命は自分たちで守る」という住民の皆さんの熱意と気迫を感じた報告会となりました。



すさみ町の皆様、ご協力ありがとうございました。